

# グローバル感あふれるキャンパスに

## 奥村国際交流センター長に聞く

国際交流センターは、海外の大学や研究機関との学術文化交流を推進し、学生派遣、留学生や教員・研究者の受け入れ、留学支援講座や学生交流などをさまざまなプログラムを展開している。4月1日付でセンター長に奥村経世(オクムネノヨシ)が就任した。任期は2年。大学の国際交流のあり方についてお聞きした。



学内の国際交流についてお考えを。専修大学をグローバルな空気に満たしたキャンパスにしたいと考えています。つまり、地球規模で物事を考え、国際性豊かな学生を増やすことです。留学や海外旅行は大事な体験ですが、海外に行かなくても国際的な視点は養えると思っています。……

中央が奥村センター長。左は国際交流サークルSHPの齋藤真歩さん(文3)、右は中国からの留学生リン・キンさん(文3)。

専大キャンパスには、5000人を超える(4月現在)学部、大学院の正規留学生がおり、交換留学生や短期留学生も入ると年間約6000人の留学生が学んでいます。この環境の中で、一緒に調査したりお互いの国について発表したりすれば、グローバルマインドが生まれるきっかけになります。専大には国際交流会館を拠点とした「寮内留学」があります。もっと身近な「キャンパス内留学」になります。その推進には教職員の協力和学生の感性がほ

い。国際交流サークルのメンバーの意見も聞きながら進めていきます。

——本学には多種多様な留学プログラムがあります。

長期交換、セメスター交換、中期、短期(夏期と春期実施)に加え寮内留学と、目的や期間、時期に応じて留学のプログラムが選べます。今後より充実した事業にしていきたいと思っています。

専修大学の国際交流協定校は現在、組織間も含め18カ国・地域34校・機関ですが、特に、アジア諸国との交流を大切にしていきたいと考えています。

——国際交流センターのあり方について。

専大の21世紀ビジョンである「社会知性の開発」を国際交流の視点から実現したい。社会知性とは、物事を知って考え判断する力で社会問題を解決する力です。草の根の濃密な異文化交流から学びました。学生諸君にもいろいろな体験をして、新しいことにチャレンジする姿勢を養ってほしいと思っています。

250人が参加した。「留学生による異文化理解講座」では、ラオス国立大学の交換留学生ブヤンヤン・スタートンさんが、クイズを交えながらラオスの文化や生活について語った。ニュージーランド、中国、韓国の留学帰国学生と寮内留学経験の学生合計4人がプレゼンテーションを行った。

ほかに留学についての個別相談、国際交流会館見学ツアーなど盛りだくさんの内容で、国際交流への理解を深めた。



は似ても似つかぬ言語です。Good morningはBore daだとか、Thank youはDi olchだとか。ですが、ウェールズ語はウェールズの公用語であり、現在60万人ほどの話者がいる言語なのです。

私もウェールズにいた時に、成人向けのウェールズ語講座で習った程度の知識しかありませんが、多くの大人が上記の講座などで一生懸命ウェールズ語を習得しようとしている様子は印象的でした。

英語話者に混じって「外国語」であるウェールズ語を学ぶ体験というのは、非常に解放的でした。解放的というのは、外国語といえば英語である、という上記の思い込みから自由になる体験だったということです。みなさんも、英語以外の外国語をぜひとも学んでみてください。

※短縮版。全文はCALL教室ホームページで

——留学や国際交流について、ご自身の経験を聞かせください。

1993年、米国ネブラスカ大学リンカーン校で1年間、在外研究を行いました。海外へは旅行を含め2回目。語学学校にも行かず米国に飛び込み失敗しましたが、世界中の研究者や学生と知り合ったことが財産になりました。日本を客観的に考え、異文化を知ることが日本らしさとは何かを理解するようになりました。

世界はどこかで紛争や事件のニュースを聞くこと、その国の友人の顔が浮かびます。自分と違った意見や異文化に対する寛容さを、草の根の濃密な異文化交流から学びました。学生諸君にもいろいろな体験をして、新しいことにチャレンジする姿勢を養ってほしいと思っています。

250人が参加した。「留学生による異文化理解講座」では、ラオス国立大学の交換留学生ブヤンヤン・スタートンさんが、クイズを交えながらラオスの文化や生活について語った。ニュージーランド、中国、韓国の留学帰国学生と寮内留学経験の学生合計4人がプレゼンテーションを行った。

ほかに留学についての個別相談、国際交流会館見学ツアーなど盛りだくさんの内容で、国際交流への理解を深めた。

## 山梨県知事 長崎幸太郎



加えて、今後、中部横断自動車道 山梨-静岡間の全線開通や、2027年にはリニア中央新幹線品川-名古屋間の開業

山梨県は、東京圏に隣接しながら、世界文化遺産富士山をはじめ日本を代表する山々に囲まれ、豊かな自然や清らかな水に恵まれるとともに、高品質な農産物や高い技術と伝統のある地場産業など、多くの地域資源にあふれています。

「日本の未来を切り拓く地」山梨づくりに向けて

加えて、今後、中部横断自動車道 山梨-静岡間の全線開通や、2027年にはリニア中央新幹線品川-名古屋間の開業

好機を最大限活用し、一層の発展を期す。多くの若者が東京に就職先を求めています。若くしての専修大学の皆さんに代わって、山梨で暮らす・働く魅力企業を知ってもらい、山梨の未来を切り拓く地「山梨」で活躍していただ

今後、こうした取り組みに加え、合同就職説明会の開催や就職情報サイトの運営等により情報発信に努め、一人でも多くの専修大学の皆さんに代わって、山梨で暮らす・働く魅力企業を知ってもらい、山梨の未来を切り拓く地「山梨」で活躍していただ

が課題となっています。私は、県内産業を持続的に発展させていくために

本県と専修大学は、昨年1月に就職促進協定を締結し、大学内での就職

https://www.pref.yamanashi.jp/rosei-koy/yama-navi/

https://www.iju.pref.yamanashi.jp/

## 海外留学・国際交流フェア開く



留学についての個別相談も活発に

「海外留学・国際交流フェア」が4月27日、生れ、留学希望の学生ら約

250人が参加した。「留学生による異文化理解講座」では、ラオス国立大学の交換留学生ブヤンヤン・スタートンさんが、クイズを交えながらラオスの文化や生活について語った。ニュージーランド、中国、韓国の留学帰国学生と寮内留学経験の学生合計4人がプレゼンテーションを行った。

ほかに留学についての個別相談、国際交流会館見学ツアーなど盛りだくさんの内容で、国際交流への理解を深めた。

「4年次生へ」6月前ですが、まだ内定を得ていない企業は多くあります。5月には17日(金)、20日(月)と22日(水)にサテライトキャンパスで学内企業説明会を開催します。6月にも、複数回実施予定です。「業界」という枠に縛られずに、まずは行動してチャンスを広げましょう。

早くも内定などを得た学生もいることで、複数回の内定を保持している場合、そのまま時間が過ぎることは、皆さんにとっても企業にとっても好ましくありません。内定辞退は遅くなるほどトラブルにつながり

「3年次生へ」インターンシップの準備は進んでいますか? 選考を伴う場合、履歴書やエントリーシートなどの提出を求められます。5月25日13時「貧困の概念化と数値化」④5月25日14時45分「貧困II」⑤6月8日13時「EU(欧州連合)とブレグジット(英EU離脱)」⑥6月8日14時「生田キヤンパス979教室」⑦6月8日15時「一度の申し込みで全5回の回にも参加できる。先着順・定員100人」

※入場無料

※国際交流事務局課204

4・9・11・12500

Email: iaf@ais.ac.jp

senshu-u.ac.jp

### 就職課から

ます。辞退する際には、原則として「おわりに伺う」ことを念頭に行動してください。

「4年次生へ」6月前ですが、まだ内定を得ていない企業は多くあります。5月には17日(金)、20日(月)と22日(水)にサテライトキャンパスで学内企業説明会を開催します。6月にも、複数回実施予定です。「業界」という枠に縛られずに、まずは行動してチャンスを広げましょう。

早くも内定などを得た学生もいることで、複数回の内定を保持している場合、そのまま時間が過ぎることは、皆さんにとっても企業にとっても好ましくありません。内定辞退は遅くなるほどトラブルにつながり

### 英語

みなさんは、外国人と見るや、思わず英語で話しかけたが相手は英語話者ではなかった、という経験はないでしょうか。何が言いたいかというと、外国語といえば英語、という考え方は、息苦しいのではないかと思います。

そこで今回紹介したいのはウェールズ語です。ウェールズは、イギリス西部の地域ですが、ウェールズ語という言語が存在することは知らない人が多いでしょう。しかし、ウェールズの首都カーディフに降り立てば、駅で待ち受けているのは写真のような案内板です。例えばFfordd allanとありますが、これはウェールズ語で、Way outの意味です。

ケルト系のウェールズ語は、英語と

### ウェールズ語事始

は似ても似つかぬ言語です。Good morningはBore daだとか、Thank youはDi olchだとか。ですが、ウェールズ語はウェールズの公用語であり、現在60万人ほどの話者がいる言語なのです。

私もウェールズにいた時に、成人向けのウェールズ語講座で習った程度の知識しかありませんが、多くの大人が上記の講座などで一生懸命ウェールズ語を習得しようとしている様子は印象的でした。

英語話者に混じって「外国語」であるウェールズ語を学ぶ体験というのは、非常に解放的でした。解放的というのは、外国語といえば英語である、という上記の思い込みから自由になる体験だったということです。みなさんも、英語以外の外国語をぜひとも学んでみてください。

※短縮版。全文はCALL教室ホームページで